

カワバタモロコを守る

～半田市内の農地に生息する希少淡水魚の保全～



カワバタモロコとは(川端諸子、*Hemigrammocypris rasborella*)

カワバタモロコは、ため池や用水路などで普通に見られた小魚ですが、生息地の改修や外来種の侵入などから姿を消しており、令和2年には国内希少野生動植物種(※1)に指定されました。県内では、豊田市で市の天然記念物に指定されるなどしています(※2)。

半田市においては、50年以上前に生息していた話がありますが(※3)、平成13年から市で行われている水生生物調査においても記録がありません(※4)。今回、神戸川水系の農業用溜池で生息を確認することができましたが、恐らく神戸川にかつて生息していたカワバタモロコの生き残りと考えられます。しかし、その溜池は小さく、干ばつなどで枯れてしまえば絶滅の可能性もあります。



半田市のカワバタモロコ

山神池での保全について

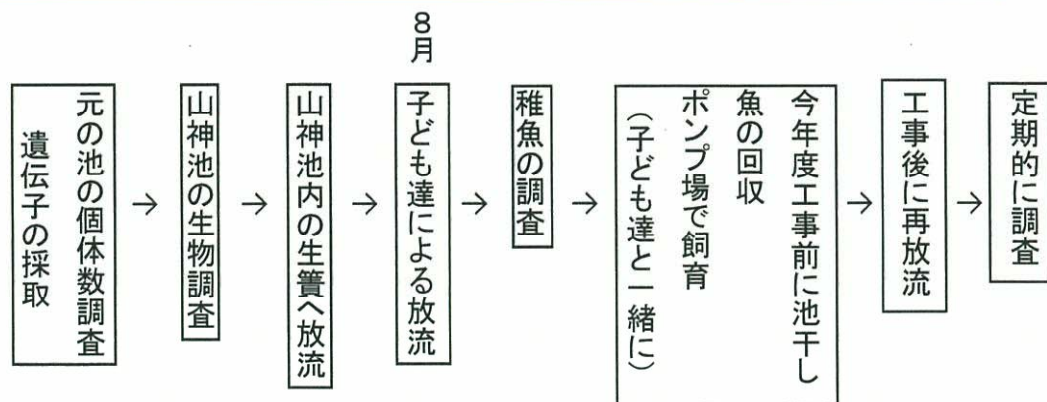
半田市のカワバタモロコを守るためには、生息地を増やすために、別の池へ放流などが有効です。しかし、日本の淡水魚は川ごとに遺伝子が違うと言われており、地域ごとに守らなければなりません。そのため放流は慎重に行う必要があります(※5日本魚類学会放流ガイドライン)。

山神池は、元の池からも近く、同様に神戸川へ流れる池で、かつてはこの池に同じ血筋のカワバタモロコが生息していた可能性もあります。また、最近の工事で水を抜いた際に外来種などは確認されておらず、十分な広さもあるため、カワバタモロコが定着する可能性も高いと考えられます。この池を基にして活動していけば、再びカワバタモロコが普通に見られる魚になるかもしれません。



保全の流れ

山神池に無事にカワバタモロコが定着できる様、次の様な手順を進めたいと思います。また、放流やモニタリング調査については地域の子ども達に手伝っていただき、カワバタモロコを通して農地の生物や環境に興味を持ってもらいたと思います。



半田市のカワバタモロコは農家さんが守って来た地域の宝物です。
子ども達と一緒にこれを守る事が、故郷への愛着につながれば幸いです。